

やませみ 通信



(やませみは興津川の清流のシンボルです)

<http://www.okitsu-yamasemi.net/>

初めての鮎釣り！やったね釣れたよ！！



鮎釣りの後はお待ちかねの鮎の塩焼き！おいしいね！



NO. 37

平成27年3月

〈平成26年度の活動〉

4月 市民の森づくり（植樹）

5月 総会

7月 市民の森づくり

川遊び・鮎釣りセミナー

9月 興津川クリーン作戦

興津川小島小学校

「川セミナー」

10月 興津川小島小学校発表会

11月 森林探検隊

2月 市民の森づくり

ふるさと貢献賞

20周年記念「清流俳句」

目次

- 1 「市民の森づくり」
興津川がある暮らし
- 3 平成26年度〈総会報告〉
- 4 清流・興津川をもっと美しく！興津川クリーン作戦
- 5 「川遊び・鮎釣りセミナー」
- 6 参加者の感想
- 7 小島小学校の4年生が学ぶ
第19回 川のセミナー
- 8 小島小学校の皆さんからの
感想
- 9 「森林探検隊」
- 10 森林探検隊に参加して頂
いたみなさまの感想
- 11 「興津川保全市民会議
20周年記念イベント」
～ヤマセミとアユと人が共生
する興津川を未来へ～

再生紙及びベジタブルインクを使用しています。

興津川保全市民会議 事業委員 (S-GIT) (株)ソマウッド 渡辺由貴子

◆興津川沿いに越してきて1年◆

私は山のお仕事をしている『キコリ』です。市民の森がある、ここ興津川沿いに越してきて、『林業』の会社(株)ソマウッドに勤めて1年が経ちました。今は、森づくりを指導している森林ボランティア団体『S-GIT』みどり情報局静岡でチェーンソーの技術を学ばせていただいています。

また、『市民の森づくり』も去年からお手伝いさせていただいています。実は、私は3年前に嶺の子山荘の横の山の植林体験に参加しました。その時には、まさかこの土地での暮らしが始まると思ってもみなかったのですが、不思議です。縁ですね！

◆市民の森づくりをふりかえって◆

平成26年2月7日 シンボルツリーの植樹

県内では珍しい大雪の中、シンボルツリーの銀杏を奥寺さんと植えました。(積雪の為「地ごしらえ」の作業は中止でした。)

「この場所が新しい森づくりのステージなのだよ。」と聞き、一面に真っ白な雪でしたが、春がとても楽しみになりました。

4月12日 植林・タケノコ狩り

新しい市民の森は、周囲に茶畑があり、遠くに駿河湾を望むことができ、見晴らしが良く、気持ち良い所です！植林には大勢の方が参加され、桜や桃、梅などの花木と広葉樹のクヌギなどを植えました。参加者の皆さんは、家族やグループで相談をしたり、スタッフさんに教えてもらいながら一本一本植えていました。植えた木が、鹿などの動物に食べられることなく、天災などからも耐えて、何十年後には、大きく育てて欲しいという願う気持ちが強くなりました。

そして、お昼は、皆さんが楽しみにしている両河内の特産品のタケノコが入ったお味噌汁をいただきました。とても美味しかったです！



市民の森づくりで植樹指導



大きな竹の子を掘りました



市民の森へ行く途中で生物の学習

7月5日 雨の嶺の子山荘で

夏は植栽した場所の「草刈り作業」の予定でしたが、雨の為 嶺の子山荘で楽しみました。

白井さんの指導で囲炉裏を囲んでの「火おこし体験」。そして計良さんの面白く、楽しい山の紙芝居?などで、室内でも山の魅力を十分に伝えてもらいました。

私も子供たちだけでなく、大人の方からもどういった気持ちで参加されているのか、お話を聞けました。「山の現状や仕事のことを伝えること」の大切さを改めて感じる事が出来ました。



竹の切り方を教えてもらいました



切ったばかりの竹で、ご飯を炊いて食べました

11月15日 森林探検隊・しし汁

「森林探検隊」は、普段のハイキング道とは違った山歩きをしたり、猪の檻を見て、もし猪が掛かったらという生実演や山の中に作られたムササビスライダーで遊んだり、竹の工作作りなど盛りだくさんの内容です。大人と子供たちの感想を読ませてもらって、皆さんが一緒になって楽しめたことがわかります。子供だけではなく、大人の自分にも良い経験になりました。

そして「しし汁」も大好評！！

毎回、お腹も心も温まる料理を出してくれる婦人部の方に大感謝です。

平成27年2月7日 地ごしらえ

4月の植栽の前に地ごしらえをしました。これは苗木を植える場所の雑草などを取り除き、お日様があたり、雨などの栄養を十分に蓄えられるようにするためです。

参加者の皆さんと、一年を通じて森づくり作業をしたことで、森は人が手を入れることでよくなるのだと実感しました。大人も子供も山での貴重な体験をしました。

木の成長は時間のかかるものですが、地にしっかり根を張ることで緑豊かに育ち、水の恵みも蓄えられていきます。人と自然が繋がることで良い関係が生まれて行くのですね。

◆人と人、山と人との繋がりで

「100年の森づくり」◆

一年を通して森づくりのスタッフのお手伝いをさせていただきましたが、参加者の皆様だけでなく、運営するスタッフも楽しんでいる様子がとてもよくわかりました。私の普段の山の仕事は会社以外の人たちとの交流が少ないため、森づくり活動で、参加者やスタッフと山に対する思いなどを話したり、子どもたちの元気な声を聞き、笑顔が見られたのは嬉しかったです。

参加された方には、何年も来られているご家族もいて、居心地が良い場所を時間をかけて、みんなで作ってきているのだと感心しました。また20年間続けていると伺い更に感動しました。

人と人、山と人が繋がること、続けることで100年の森づくりが出来るのでしょうか！！



おつかれさまでした

平成26年度 〈総会報告〉

事業委員 佐藤京子

山田会長は挨拶で、今年度は興津川保全市民会議が20周年を迎えること、主催する事業への参加申込が増え、全員を受け入れられない状況になっているが、今後もよりよい事業を企画し、市民に喜ばれる活動を目指したいと話されました。又、20周年記念イベントの一環として、清流の俳句募集を6月から始めるとの報告もありました。

静岡市長代理の伏見静岡市環境創造部長は挨拶で、興津出身として、30年前には汚れていた興津川が、市民会議を中心に20年前から始った川を守る活動が広がったおかげで、美しい清流になったことを喜んでいる、と話されました。



山田会長のあいさつ



総会での報告を熱心に聞く

講演会報告

本年度は「川が僕らを育ててくれた～地域の自然の教育力～」というテーマで常葉大学社会環境学部教授、山田辰美先生に講演をお願いしました。



講演者の紹介

最初に、山田先生ご自身が川に携わるようになったことを振り返り、いつも川で遊んで、川からいろいろな事を学んできた。そして、世界観の中心にはいつも川があり、ふるさとが自分（こども）を育ててくれた、と話されました。現在も川のほとりに家を見て、3階のリビングから常に川を見ながら生活しているそうです。

「川が作る文化・文化が作る川」というスライドにより、川は子どもたちの遊び場であり、多様な生物が生息していることを知る学びの場であること。また、川では地域の年中行事が行われていることや川に因んだ昔話が生れ、語り継げるなど、川が地域住民の生活文化の中心だったと話されました。

山田先生は藤枝の瀬戸川フォーラム代表として、子ども達の自然とのふれあい体験（星の楽校やリーダー養成講座）を通して、川が大好き・自然が大好き・ふるさとが大好きな人をたくさん育て、自然に寄り沿った文化を育くむ活動を続けています。



山田辰美先生の楽しい川と生活文化の話聞く

興津川保全市民会議事務局 中村 洋之

総勢 1,100 人が 10 会場に分かれて

9月6日(土)、興津川クリーン作戦が開催されました。興津川の10会場に分かれて、約1,100名が、ごみ拾いに汗を流しました。

市民会議設立当初から開催されてきた恒例行事ですので、西里キャンプ適地では清水農協さん、茂野島キャンプ適地は清水銀行さんというように、それぞれの持ち場がだいたい決まっています。

きれいになっていく場所

9時の開始の合図とともに一斉にごみを拾い始めますが、ほとんどごみがありません。多くの会場は30分ほどで、作業は終了しました。



一部のバーベキューポイントでは・・・

ただ、一部でごみの量がとても多い会場がありました。中流域の宮嶋橋周辺です。この場所は、キャンプ適地ではありませんが、深い淵もあり、レジャー客からは人気のあるスポットです。人の目が届きにくい場所には、一部の心無いレジャー客がごみをそのままにして帰ってしまうのです。これまでも、バーベキューコンロやテントなどが捨てられることもありました。



ごみはどこな



それぞれが手分けをしてごみを拾います

参加者への特典、サービス

メイン会場の和田島キャンプ適地では作業終了後、事業委員による恒例の両河内産冷茶の呈茶サービスも行いました

また、今年は新たな取り組みとして、やませみの湯、笑味の家、食事処たけのこ、森のジェラートCOMOさんに協力をいただき、参加された方々に対し、特別割引券を配布しました。

ゴミの量が目に見えて減少しました

平成7年から興津川クリーン作戦をスタートし、20年近く継続してきた結果、興津川クリーン作戦で回収したごみの量は、毎年確実に少なくなっています。

記録に残るゴミの排出量は、第3回が総量12トン(可燃ゴミ8トン、不燃ゴミ4トン)と多かったものが、近年の排出量の推移表の通り、平成25年から1トンを切り、平成26年は総量840kgと大幅に少なくなりました。

今年は8月下旬に雨が多く、レジャー客が少なかったことありますが、何より河川を利用される市民の方々のマナーが向上していることが最大の要因だと思います。

清らかな興津川がいつまでも美しく保たれるよう、これからもご協力をお願いします。

■近年のゴミの量の推移

年度	参加者数	可燃ゴミ	不燃ゴミ
H24	1,100人	800kg	570kg
H25	1,100人	640kg	320kg
H26	1,100人	580kg	260kg



拾ったごみは、分別して終了しました

池田俊美 鮎釣り講師 (11班講師) (事業委員)

「川遊び・鮎釣りセミナー」が、天候、川の状態に恵まれ、また興津川漁協、鮎釣り講師、S-GIT、事務局、事業委員の皆様の協力により無事開催できた事を嬉しく思います。

鮎釣り教室は、毎年人気の企画で、多くの参加者があり、スタッフ一同感謝しております。

鮎(あゆ)は魚へんに+占(うらなう) = 鮎
釣れるか、釣れないか**期待感**のある字ですね!

ベテランの鮎釣り講師が、参加者の皆さんと3時間程一緒に釣りますが、思うように釣れないのが鮎の友釣りです。もう少し釣れたらなあ〜と、私も講師の一人として思います。

友釣りは、針をつけたおとり鮎を「なわばり」を持つ野鮎に近づけ、侵入者の鮎を追い払おうとして体当たりしてきた野鮎が針に掛かるといふ、鮎の習性を利用した日本独特の釣りです。

鮎釣りは「1に場所、2に場所、3と4におとり鮎、5に掛針り」の格言がありますが、釣り師にとっても難しい釣りです。

川島さんの家族と3時間

私のグループの川島さん家族は、祖母、母親、長男小6、長女小4の4人でした。15分程で、長男(小6)が1匹釣りしました。元気な18cm位の鮎でした。竿とタモを両手に持ち、引抜きでタモの中に2匹の鮎が入ると、「ヤッター」と笑顔が…!。長女、お母さん、おばあちゃんの順番で釣りしました。元気な野鮎(天然鮎)が釣れ、家族全員で2〜3匹釣ることが出来ました。

野鮎が掛かると、目印が前や後ろに動き、鮎

2匹が掛かる竿の重さ動きに「すごく引っ張るネ」と長女は感動!引抜きで2匹の鮎が網におさまると家族で拍手とガッツポーズ!。釣れたところを写真に撮ろうとしましたが、なかなかうまくいきませんでした。感動した家族の「笑顔とガッツポーズ」は講師冥利につきます。



川に足を入れ、気持ち良く鮎釣り

鮎釣りの極意を伝授

鮎釣りの極意は、天候、川の状態、水温、藻(こけ)の状態、餌を食べる時間帯、そしておとり鮎を天然の鮎と同じ様な泳ぎ方をさせる…etc!。釣りながら家族の皆さんに、そっとお教えしました。

いつまでもきれいな興津川で

自然豊かな興津川の清流を市民の皆様とともに大切に後世に残していきたいですね!。美しき水、鮎のにおい、鮎のはだ触り、塩焼きの味なども忘れないでほしいですね!

静岡市の子供たちに、自然豊かな「山(森)づくり、川の環境保全、豊かな海を守る」興津川保全市民会議の活動を一人でも多くの人に理解してもらおうと同時に、参加もしていただきたいと思います。

偶然と驚き…ダイビング教室で再会

余談ですが、3日後の7月29〜31日に川島さん親子と市営プールのダイビング教室で再会しました。長女(小4)は、私の生徒さんでした。そこでまた、楽しく鮎釣りの話をしました。



今日は鮎が釣れるといいな!

参加者の感想

■今日の感想

- ・興津川で遊んだのは久しぶり。昔遊んだのを思い出した。
- ・川がきれいで心が洗われる。
- ・鮎、ナス焼き、焼き芋、すべてが美味しかった。
- ・いつもはザリガニを触ることを怖がる子が、手で魚を触っていました。食べることも嫌がるのに、鮎の塩焼きを鮎の頭までバリバリ食べている姿を見ることができた。
- ・スーパーで買って食べた鮎より美味しかった。
- ・また来たい。
- ・もっと釣れればよかった。

■興津川でやってみたいこと

～未来に向けて～

- ・若者教育が大切。このようなセミナーが増えるとよい。
- ・ゴミが1つも落ちていない川になればいい。
- ・このまま綺麗な川でいてほしい。
- ・ゴミは必ず持ち帰る。
- ・もっと生き物がたくさん生きてゆけるような川へ。
- ・鮎がもっとたくさんいる川へ。
- ・鮎のつかみどりをしてみたい。
- ・カヌー、ラフティング、川下り、キャンプ
- ・今と同じ川
- ・日本一きれいな川
- ・色んなイベントに参加したい。バスで移動できると参加しやすい。
- ・ミニ水族館づくり
- ・大きな魚を釣りたい。
- ・クリーン作戦に参加したい。



水が澄み、きれいな苔の豊かな川の中

■鮎釣りで楽しかったことは？

- ・鮎が釣れたこと。
- ・水がきれいで冷たくて気持ちよかった。
- ・釣竿の重さと長さにとびつくり。
- ・子どもと一緒に釣りが出来たこと。
- ・名人と釣れたこと。話を聞いたこと。
- ・ボウズハゼが釣れたこと。鮎は釣れなかった。
- ・生きた鮎を自分の思い通りにするのが難しいことが面白かった。
- ・鮎を上手に泳がせること。
- ・のんびり釣りができたこと。
- ・カエルが釣れたこと。
- ・釣れるか、釣れないかドキドキしたこと。
- ・掛かった時の引きの強さ。
- ・鮎がたくさん泳いでいるのを見れたこと。
- ・私が竿をもったら釣れたこと。

■川遊びで楽しかったことは？

- ・救出方法を学んだこと。ためになった。
- ・岩からジャンプしたこと。
- ・網を持って、魚を追いかけて泳いだこと。
- ・流れに身を任せて流れていくこと。
- ・魚が泳ぐ姿を直接見れたこと。
- ・ライフジャケットで浮いていられたこと。
- ・カワムツ釣り
- ・息子が楽しそうに遊んでいた。
- ・川をきれいに使うことの大切さを学んだ。
- ・興津川の風景が良かった。
- ・岩陰に魚やエビがたくさん見つけたこと。
- ・きれいな川。
- ・自然の中でゆっくりできたこと。
- ・深いところで遊んだこと。



釣ったばかりの、色と形の良い鮎

興津川保全市民会議 事業委員 望月誠一郎

小島小学校の4年生を対象に開催

興津川流域の小学校の生徒に興津川のことを学習してもらおうと、昨年は、興津小学校の生徒を対象として行いました。今年は小島小学校の4年生を対象に実施しました。

1日目は、学校で興津川の学習

1日目の7月23日に、小学校の講堂で、興津川の特徴や自然について紹介しました。

最初に、望月事業委員長から、興津川の山や川の様子、そして鮎の生態と鮎の友釣りの話をしました。つづいて、計良講師が、興津川流域の山にいる動物について楽しく紹介しました。

また、永井彰先生が、興津川周辺にいる蝶の種類や生態について話しました。

生徒たちは、事前講習で興津川についていろいろな興味を持った様子でした。



永井先生による事前講習

2日目は、川で生物を採集し、教室で研究

2日目は、9月10日に実際に川に行き、体験学習をしました。最初に、興津川の下流部の承元寺橋の上流で、水生生物の採取をしました。

・下流の承元寺橋付近で採取

最初に東海大学の北野先生から網を使った採取方法について教えてもらい、早速川の中に入り採り始めました。最初は、要領がわからなかった生徒たちも、北野ゼミの研究生の指導によりすぐに上手になりました。

・上流の黒川で採取

そして、次には、興津川上流部の黒川に行きました。それぞれが元気に川の中の石を持ち上げたり、草むらに潜んでいる魚やエビなどを追い出して、それを網で受けて採るなど、要領もよくなり、みんなたくさんの水生生物を採取出来ました。



興津川の下流の承元寺橋上で水生生物を採取



上流の黒川でも採取

お昼は流しソーメン

お昼は楽しい流しソーメンを食べました。そして、小島小学校に戻り、採取してきた水生生物の分類や顕微鏡でエラを拡大して観察しました。



みんなで食べる流しソーメンはおいしいね



採取した水生生物を調べる

小島小学校のみなさんからの感想

興津川探検隊はどうでしたか？

勉強になったことや、楽しかったことを教えてね！

- ・色々な水生昆虫や魚などとれて勉強になって楽しかった。(16人)
- ・興津川の魚はどんな種類や名前、色、何を食べているのかが勉強になった。(14人)
- ・ボウズハゼのおなかに吸盤があるということがわかった。(4人)
- ・魚をとるのが初めてでした。すごく楽しかったです。アユの体の中を見てびっくりしました。(2人)
- ・アユのおなかの中を見てみて、最初は気持ち悪いと思ったけど、途中から気持ち悪いというのを忘れて魚もすごいんだなあと思いました。
- ・興津川は自然が豊かなのは知っていたけど、さまざまな自然にふれて、興津川には想像より、もっとたくさんの自然があつてびっくりしました。
- ・きれいな川にだけいる魚の事を学んだ。(2人)
- ・いつもだったら見られない魚とか色々いて、興津川博士になった気分でした。
- ・興津川の自然の事をわかりやすく説明してくれたので良かったです。(2人)
- ・流しそうめんパイナップルが流れてきてとれた時が嬉しかった。

興津川でやってみたいこと、こんな川にしていきたい

…など 未来に向けての意見を聞かせてください。

- ・興津川がこれからもきれいで、自然豊かな自慢の川でいてほしい。(25人)
- ・ごみを減らし、ガラスやあぶないものがない、安全な川にしたい。(10人)
- ・魚や水生昆虫をもっと増やしたい。(9人)
- ・魚や鮎を食べたい (3人)
- ・釣りをしたい(7人)
- ・魚が心地良く住める川にしたい。(2人)
- ・魚をいっぱい観察したりしたい。
- ・赤ちゃんの時、海で育つ魚がいるから、海もきれいにし、興津川に魚がいっぱいになってほしいです。

「次は、こんなことを勉強したい、調べてみたいこと」と思うことはなに？

- ・興津川にいる、まだ知らない魚の種類や虫や川の中にいる昆虫を調べていたい。(16人)
- ・どうしてアユは海に行くか。
- ・興津川の事を調べたい。(5人)
- ・次はどこどの川はきれいで、どこどの川はきたないというのを調べてみたい。
- ・川の種類を勉強したい。
- ・なんで興津川は透明なきれいな色をもてるのか。なんであんなに冷たいのか。
- ・季節によって流れは変わらないか。
- ・釣りを勉強したい。
- ・オイカワや、ウグイはなんでウロコがきらきらするのかと思った。
- ・魚や昆虫はどういうふうに、くらしてるのか。
- ・ゴミの量とか、石の形とかを調べたらおもしろいんじゃないかと思います。
- ・興津川の近くにある草や花を調べたいです。
- ・小島にいる蝶について勉強したい。
- ・次は下流で魚をとってみたいです。

10月25日研究発表会



前回調べたことをまとめて発表



深澤さんは、「水生昆虫の種類と大切さ！」を発表

森林探検隊に参加して

イオン清水店（社会貢献担当） 毎熊幸代

11月15日晴天！早起きして興津川上流に向かいました。今回は初めて興津川保全市民会議に参加、集合場所までの所要時間もわからず、そして集合場所も定かでなく、少し不安な気持ちで出発しました。いつもは主催者の立場が多いので、新鮮な気持ちのドキドキ感でした。「今日は思い切り楽しもう！」とはいえ、今回の参加の目的は、この3つの課題を確認してくるというものでした。

- 1 イオンチアーズクラブの森づくりの活動場所として適地かどうか？
- 2 興津川保全市民会議を構成しているみなさんてどんな方々だろう？
- 3 興津川上流の森の魅力は？

1 イオンチアーズクラブの森づくりの活動場所として適地かどうか？

私は現地までのルートとして、庵原から吉原の急な山道を越えて行き、約40分で到着しました。思ったより所要時間は短かったものの、貸し切りの大型バスでは52号線から両河内を回るしかないということがわかりました。しかし、現地集合も良いことにしたらどうか？駐車場はたっぷりあるか・・・などということを考えながら進みました。途中で、無人販売所を見つけ、お野菜を抱えるくらい買いました。参加者のお母さんたちには魅力的だろうと思いました。その販売所に朝早くから集まっていた地元のおばあちゃんたちの威勢のいいこと！！集合場所まで教えていただきました。

実際の活動場所の山は、なかなか厳しい急こう配です。今まで、毎年皮むき間伐で手入れしてきた人工森はほぼ平地で広い場所を選んできたので、あまりに違う森の様子に驚きました。清水に生まれ、今まで住んできたのに一番身近な森の姿を知らずにいたことに気づき、フィールド的に厳しいながら「子どもたちに、この森の姿をみせたい」と、強く思いました。どんな課題があるのか改めて考えてみる必要と、それをどうクリアするか、できないのかを考えていく必要があるのは言うまでもありません

個人的には、母体となるイオン清水店が清水にあり、飲料水をはじめ、たくさんの恩恵をいただいている興津川上流の森を整備することは、子どもたちにとっても大切で、やりがいのあることだと確信しています。また、夏にはこの透き通る美しい水を湛える興津川で遊べたら、子どもたちはさぞかし喜び、ますます森も川も好きになるだろうと、わくわくするくらいです。

2 興津川保全市民会議を構成しているみなさんてどんな方々だろう？

森林探検隊では、森のお話、火燵しのやり方、こんにやくづくり、竹の工作の指導、猪汁の振る舞いなどの企画に、沢山の方が持ち味を活かし関わっている姿が印象的でした。どんなに素晴らしいフィールドも“人”に活かされている、人は“森”に活かされていると改めて感じました。教科書やインターネットでは学べない“生きる知恵”を伝えてくれる方々との出会いは、この活動の何よりの魅力だと思います。



3 興津川上流の森の魅力は？

自分なりに今回のイベント参加の感想をまとめてみると、おのずと市民の森の魅力が、わかってきました。急な斜面、広々とした感覚はないが、多様な植物と森林とそこに蓄えられる豊かな“水”。冬から始まる森づくりの行事そのものがこの“豊かな水”を守っていくためにあるのだと感じます。そして、その川の水が注ぐ海までがイメージできる素晴らしいフィールド、その自然と共生し心豊かに暮らす人々がいることも大きな魅力！

ぜひ春からは生き生きとした好奇心と、創造性豊かな子ども達と森づくりに参加したいと思っています。ありがとうございました。

森林探検隊に参加して頂いた みなさまの感想

■「森林探検隊」どうでした？楽しかったこと

- ・とても盛り沢山の内容で、あっという間の1日でした。参加者も山の素晴らしさを十分に体験でき、自然に親しむとてもよい機会だったと思います。環境保全是こういうところから始まっていくんだと感じられ、勉強になりました。
- ・全部
- ・猪鍋が美味しかったです。ロープ渡りは童心に返って楽しみました。
- ・子供達がやりたがること（火を付ける、刃物を使う）が豊富にあったこと。
- ・猪の檻を見ることができたり、普段登れない道なき道を歩いて、いい経験になりました
- ・ロープスライダー、想像以上のスリルで楽しかった。（2人）
- ・色々体験ができて楽しかった
- ・自然の事を知れました。
- ・森林探検隊は皆で自由に楽しめた。ムササビがおもしろかった。
- ・沢登りが楽しかった。
- ・しし鍋のお肉がおいしかったです。
- ・ちょきんばこをつくったよ。
- ・ロープウエーがとても楽しかった。山イチゴがおいしかった。自然全体が良かった。
- ・竹で工作した事。
- ・たいへん楽しい内容でした。竹細工が面白く、もう少し時間を掛けてやりたい。



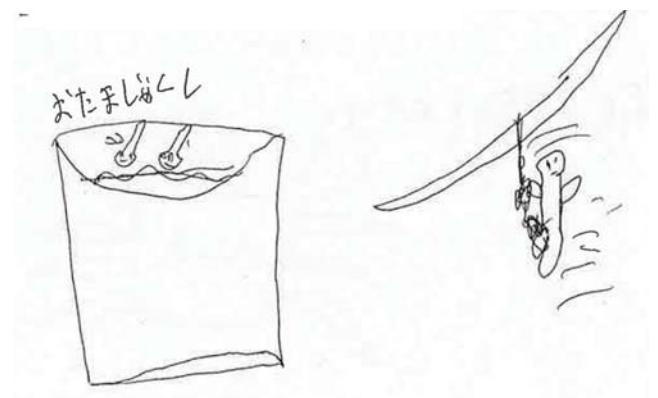
■今日の感想

- ・お忙しいところ大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・おもしろかった。
- ・お天気も良く楽しかったです。

- ・山登り。こんな所を登るのか？と、それでも慣れた人達のフォローがあり、安心して参加できた。
- ・盛り沢山の内容で、どれも楽しく参加させていただきました。いのししの肉を初めて食べましたが美味しかったです。
- ・火おこしなど生活の中で出来ない体験ができてありがたかったです。
- ・多くの人に教えたい。
- ・スライダー楽しかった。こんなにやくおいしい。
- ・自然にふれ合えて良かった。
- ・なかなか入れないような所に入ることができて良かった。
- ・森の中でたくさん遊べて良かった。
- ・本当によい内容でした。友人にも呼びかけたい。

■「こんなことやってみたいな」と思うこと

- ・バンジージャンプ
- ・アウトドアで出来る料理など
- ・山の中の食べられる物を教えて頂きながらの散策
- ・川遊び
- ・芋掘り
- ・ハイキング
- ・沢登り
- ・おかしとり
- ・竹を切ってテーブルなど、色々作りたい。
- ・今度、自分が1人で森の中で楽しみたい。
- ・イノシシを見てみたい。
- ・自然の中で遊ぶこと



「興津川保全市民会議 20周年記念イベント」

～ヤマセミとアユと人が共生する興津川を未来へ～

興津川保全市民会議 事業委員 成瀬修一

興津川保全市民会議が発足して20周年を迎えました。これを記念してイベントが平成27年2月21日（土）13時30分から16時まで、「清水ふれあいホール」で開催されました。そこで、その概要を報告します。

第一部（13：30～14：25）

開会に先立ち、サックスの生演奏で、「清流の唄」が流されました。演奏者は、興津川保全市民会議の活動に小学生の時に参加され、大いに活躍された「柳澤ひろまさ」さんです。オープニングが大変盛り上がりしました。



柳澤ひろまさ君の演奏

1. あいさつ

（興津川保全市民会議会長 山田訓史）

山田訓史会長のあいさつは、市民会議の活動の様子と、地道な活動が認められて、いくつもの表彰を受けたことを紹介しました。なかでも、2011年に、内閣総理大臣賞を受賞しましたが、その時には、吹上御所で天皇・皇后両陛下にお目にかかり、お言葉を頂戴したそうです。この後の20周年記念事業では、清流の俳句で入賞された優秀者の表彰式があることなどのお話がありました。そして、清らかで緑豊かな興津川を10年・20年後までも、引き続き守って行くために、ご協力をお願いします、と話されました。

次いで、望月よしお・環境大臣からの祝辞が披露されました。その内容は、自然環境の保護と水と自然との共生、子供たちの環境教育や地球環境保全の一員として、これからも活躍を期待しますとありました。

そして、司会・進行役のFM清水パーソナリティーの吉井佐和さんによる、本日の日程の紹介がありました。



山田会長のあいさつ

2. 興津川保全市民会議の歩み

（興津川保全市民会議理事・事業委員長

望月誠一郎）

望月事業委員長から、市民会議の20年の歩みが主にビデオにより説明されました。ビデオでは、ヤマセミの映像と清流の唄のバックミュージックが入り、沢山の方々の協力を得て活動してきた様子を映像を通して紹介されました。活動は、事業委員を始め、関係者の特技を生かして、子供たちと楽しく行われてきました。

その内容は、内閣総理大臣賞の受賞から、森林探検隊で興津川の源流から河口まで行き、いつまでも清らかな興津川を守ろうと誓ったことや、コンニャク作り、火起こし体験、しし鍋などを味わったこと。清流の唄の作成、クリーン作戦でゴミが年々減って行った。タケノコ掘り、植林・下草刈り、鮎つり教室と川遊び、川のセミナー（流しそうめんが大好評で、永井・北野両先生の水生生物の採集と説明を聞く）、など沢山の事例が紹介ならびに説明されました。



市民会議20年の歩みをビデオで紹介

また、魚にやさしい堰堤を造るよう陳情することも報告されました。

最後に、これからの3つの目標が示されました。すなわち、

- ①新市民の森づくりを行う。
- ②生物と共存する川づくりを行う。
- ③静岡のおいしい水を誇り、いつまでも清らかな興津川を次世代に残す、ということです。

3. 功労者表彰

興津川保全市民会議の発展と継続に大きな功与ならびに貢献をなされた3名に、会長から表彰状と記念品が贈られました。

すなわち、設立当初より会員であり、また、市民会議の顧問として、さらに、「川のセミナー」などの講師として、長年活動に貢献されてきた、永井彰氏。設立当初より会員であり、理事兼幹事と事業委員として、殆どすべての行事に参加して、大変な活躍をされてきた、塚口満智子氏。「市民の森づくり」や「森林探検隊」活動の企画・運営を担うとともに、林業の技術指導やハイキング歩道の整備などを実施してきた「みどり情報局静岡(S-GIT)」(代表して、奥寺利充氏)です。

4. 清流俳句表彰

興津川市民会議の20周年記念の一環として、市内を流れる全ての清流を対象にした俳句を募集しました。一般の部156句、学生の部427句の応募があり、その中から、厳正な審査で選ばれた俳句の作者に、会長から表彰状と記念品が贈られました。

表彰者は、次の方々です。一般の部は、大賞が、稲垣スミ江氏です。優秀賞が、山田量子氏、伏見智晴氏です。佳作が、今村正人、雪山京子、山下昭、新谷真紀、臼井治江の各氏です。学生の部は、大賞が、竹下倅穂さんです。優秀賞が、今永悠さん、海野航平さんです。佳作が、芝田敦史、秋山大誠、山田悠太、清水佑香、村田華の各さんです。

なお、選者である関森勝男先生の講評が、司会により代読されました。

〈休憩時間〉再びサックス演奏

また、休憩時間に、再び、「柳澤ひろまさ」さんのサックス演奏が行われ、清流のせせらぎのような音色が心に染み渡りました。



功労者の永井彰氏、塚口満智子氏、奥寺利充氏



清流俳句（一般の部）の表彰



清流俳句（学生の部）の表彰



清流俳句の選者である関森勝男先生の講評

清流俳句（学生の部）受賞作品

【大賞】

水草は 川の中での オーロラだ

竹下倅穂（小学5年生）

【優秀賞】

夏の川 水面に映る 太公望

今永悠（中学2年生）

七月の 友とかけ合う 川の水

海野航平（中学1年生）

【佳作】

せみが去り 川のせせらぎ 耳に入る

芝田敦史（小学6年生）

すずしきは 風鈴に勝つ 川の音

秋山大誠（小学4年生）

おきつ川 アユがいつぱい うれしいな

山田悠太（小学4年生）

上流で やませみ楽しく ないている

清水佑香（小学4年生）

夏の川 山のけしきと よくにあう

村田華（小学4年生）

清流俳句（一般の部）受賞作品

【大賞】

鮎釣の 流れに逆らふ 杭になり

稲葉 スミ江

【優秀賞】

清流の 霧が育ぐくむ お茶の里

山田 量子

百竿の 一人として 鮎を追ふ

伏見 智晴

【佳作】

夏海へ 一路澄みたる 興津川

今村正人

友釣の 師匠の父と 興津川

雪山京子

つり糸に 鮎輝けり 興津川

山下昭

月光に 吊るす胴長 鮎の宿

新谷真紀

鯖鮎を 休めて堰の 水碧し

白井治江

第二部（14:40~16:00）

記念講演に先立ち、望月委員長のあいさつと、受賞の俳句がプリントされている記念品の手ぬぐいが披露されました。

清流俳句の受賞作品が載っています



5. 記念講演

「素晴らしき興津川、そして静岡の自然」

(アウトドア自然派タレント・鉄崎幹人氏)

講師は、アウトドア自然派タレントの鉄崎幹人氏です。まず、司会から、鉄崎氏のプロフィールが紹介されました。

講演の内容は、川は文化のバロメーター、静岡の自然の素晴らしさ、興津川の水が主なものでした。

最初に、鉄崎氏は、聴衆者には子供が多いと思って、子供向けの内容を用意して来ましたが、年齢層が高いと驚かれていました。

まず、子供向けのクイズから始まりました。例えば、ザリガニの雄雌の見分け方やおしっこの出口、カニの雄雌や、キンブナの雄雌などについてです。さらに、動物の保護色や擬態について、自然をよく観察すると面白い。カクレクマノミは性転換する。森の恐怖として、ジョロウグモの捕獲（弱肉強食の世界）について。河童の好きなものは何か？などについて質問と解説がされました。



鉄崎氏による興津川の素晴らしさと静岡の自然について

次に、興津川についての話です。興津川は川岸まで車で入れる。子供たちが川遊びを出来る（安全で、環境が良い）。源流である県境の田代峠まで行って来たこと。そして、ビデオで興津川の魚を説明されました。例えば、アユ、カワムツ、アブラハヤ、カマツカ、ボウズハゼ、ヌマチチブ、シマドジョウなどです。

そして、興津川の特徴として、水生昆虫が多い（ヒラタカゲロウ、ヒゲナガカワトビケラ、ミヤマカワトンボ・ハグロトンボ・コヤマトンボのヤゴなど）。また、モクズガニ、サワガニ、アカハライモリ、ツチガエル、カジカガエル、



こまった顔をした犬みたいな花など自然について

カワナなども生息している。この理由としては、興津川は、水質が良い。川岸に水生植物が繁茂している（他では余り見られない良い川）。川が蛇行している。など、多様性のある環境であるためです。このように興津川は、生物多様性と生物量の多い川です。結論として、興津川は、水清く、命にあふれ、人の営みとともに、川が保たれていると言われました。

さらに、遠州灘では、アカウミガメが産卵している。ところが、愛知県の三河湾では、スナメリが減っている。理由としては、生活排水の流入のために、水質が悪化している。赤潮が毎年発生している。ヘドロが溜まっている。貧酸素である。などです。身近な自然は、お金では買えない「宝物」です。まさに、お金では買えない、良い自然、きれいな水が興津川にある。というお話をされました。

最初は子供向けの易し過ぎる内容でしたが、知識が豊富で、興津川も見学されるなど、興津川のこともよく知っておられましたので、中身の濃い、そして、ユーモアのある、楽しくて分かりやすい講演でした。鉄崎先生ありがとうございました。

本日の司会

FMマリンパル、パーソナリティの吉井佐和さん

本日の司会は、清水出身のFMマリンパル、パーソナリティの吉井佐和さんをお願いしました。



「第4回 ふるさと貢献賞」を受賞

平成27年2月7日(土)静岡新聞社が主催する「第4回 ふるさと貢献賞」を受賞しました。この賞は、静岡県内でふるさと静岡県を大切に、地域のために活動している団体、学校、生徒及び個人に与えられるものです。本年は、114件の応募があり、その中から興津川保全市民会議が選出されました。授賞式は、静岡新聞社本社で行われ、静岡新聞社会長及び静岡県教育長から表彰状と記念の盾が贈呈されました。



興津川保全市民会議の活動の紹介



静岡県の教育長と静岡新聞社会長と記念写真



貢献賞を受賞した個人、団体への副賞の盾

興津川保全市民会議の会員になり、「清流の都」づくりのため、一緒に活動してください。

法人、団体等会員 3,000円/年
個人会員 1,000円/年

会員へは、「やませみ通信」他、年間を通じて各種イベント、企画の案内を送らせていただきます。また、清流のうたのCDなども特別価格にて提供します。

発行 興津川保全市民会議
編集 興津川保全市民会議 事業委員会
編集以外 (株)地域デザイン研究所(望月)
発行日 平成27年3月

興津川保全市民会議事務局
(静岡市環境創造課内)
TEL. 054-221-1319
FAX. 054-205-2666
〒420-8602 静岡市葵区追手町5-1



ホームページもご覧下さい <http://www.okitsu-yamasemi.net/>

編集委員からひとこと・・・



平成26年度は興津川保全市民会議の発足20年の記念事業を行いました。その記念事業で、「清流の歌」をサクソで演奏し、盛り上げてくれたのが、東海大学附属翔洋高校2年生の柳澤君です。小学生の頃親子で参加していた柳澤君、今後も活動に参加をしてほしいですね。